診療放射線技師としてのあなたの役割は何ですか？

札幌医科大学病院　長濱宏史

帰国中に自問したのが上記のタイトルであった.

研修を通して感じた思いは過去に本研修に参加された諸先輩方とまったく同様である. また, 同期メンバーに留まらず 1 期から 7 期の方々とも同じ気持ち, 同じ志を共有した気持ちでいっぱいである. 以下, 指定されたテーマを盛り込みつつ本研修結果を報告する.

私がこの研修に参加した動機は,「現在および将来の日本の診療放射線技師と世界との関わり」を知るヒントを得たかったからである. 本研修はこの類の疑問を解くカギやヒントもしくは考察の場を有り余るほど供給してくれた. 但し, 明確な答えは無い. それはやはり我々が考え, 創っていくものなのだろう.

米国に於ける診療放射線技師は機器を操る「操縦者」という印象だ. その仕事に臨床的な考察が入ることは無いし, 入れてはならない. 職業名は同一かもしれないがその役割は根本から異なり, 日本と比較して考える対象では無いと思う.

日本の診療放射線技師という職業を考えたとき, その役割を一言で説明することはできない. 一つ明確なのは, 放射線技術を操り, 磨きあげ, 発展させる役割を担う職業はまさに診療放射線技師であるということだ. では, 活躍の場が多岐に渡る診療放射線技師のなかで, どこのどういう診療放射線技師がこの役割を担うべきか. どういう形でその活動を行うのが最善か. また, いわゆる「医療」は西洋医学であり, 歴史を考えても日本は常にその先端医療技術や知識が後進することは必然であり, そういう背景において, 世界における日本の診療放射線技師の役割はどういうものか.

日本には日本の良さがある. 放射線技術に於いてもそうだと思う. 繊細な 3D 画像, 細やかに考え抜かれた撮像条件. これらは日本人特有の気質が生む, 大いなる科学だと思う. 先端技術がアメリカでやり尽くされた後でも, オリジナルはあるのだと思う. 日本には装置を巧みに操る技師がたくさんいる. 少なくとも日本はアジア圏をリードすることができると思う. 全員が英語を話し, 全員が学会発表する必要は無い. これは医師の世界でも同様だ. 臨床現場も重要であり, 未来を見据えた研究もどちらも重要だ. 例えば私が働く北海道ではほとんどの施設が地域医療に携わり地元の健康を支える重要な役目を担っている. これはこれで重要なことであり必要である. 今後は診療放射線技師像がさらに明確に別れていくのかもしれない.

現在の, そして将来の自分の診療放射線技師としての役割を考えさせられる貴重な時間を頂いた.

本研修を毎年成功させておられる JSRT 事務局, GEHC-J, スタンフォード大学, さらに 8 期メンバーをご引率頂いた北里大学佐藤英介様に, 心より感謝する.

毎日が雲一つ無い快晴！構内にあるHoover Towerの前で. 右が筆者, 左は大学時代の同期であり奇しくもスタンフォード研修の同期となった北海道大学病院辻さん.